



# 霊長類に関する適切な画像配信のためのガイドライン

Best Practice Guidelines for Responsible Images of Non-Human Primates

国際自然保護連合(IUCN) 「ヒトと霊長類の関係」部門

IUCN PRIMATES  
SECTION FOR  
HUMAN-PRIMATE  
INTERACTIONS

<著者>

Siân Waters, Joanna M Setchell, Laëtitia Maréchal, Felicity Oram, Janette Wallis & Susan M Cheyne

<協力>

Brooke Aldrich, Sherrie Alexander, Liana Chua, Tara Clarke, Malene Friis Hansen, Carolyn Jost-Robinson, Kimberley Hockings, Marni LaFleur, Lucy Radford, Erin Riley, Amanda Webber

<日本語翻訳>

徳山奈帆子・山梨裕美・内藤アンネグレート 素

## はじめに

写真や動画（以下、画像）は、ヒト以外の霊長類（以下、霊長類）の福祉や保全について、何百万もの人々の注意を引くことができます。しかし、その画像のもつ文脈が不適切であったり、不明瞭であったり、あるいは（拡散される過程で）失われたりすると、人々はその画像が意味することについて誤った結論を得てしまうかもしれません。そのように人々が画像から誤った結論を得ることで、霊長類の福祉と保全に意図せずして負の結果がもたらされる可能性があります(Aldrich 2018; Wallis 2018; Norconk et al. 2019)。ソーシャルメディア<sup>\*1</sup>上では、画像が適切な文脈なしに拡散する可能性が特に懸念されます。



@Pravind\_Segaran

多くの国において、霊長類は野生から違法に捕獲され、観光客のフォト・プロップス<sup>\*2</sup>として利用されています (Osterberg & Nekaris 2015; LaFleur et al. 2019; Norconk et al. 2019)。撮影に用いられる若齢個体を手に入れるために、その親個体が殺されることもあります。人を噛まないように抜歯されることもあります。撮影に用いられる霊長類は、強いストレス下にある可能性があります。例えば、スローロリスのような夜行性の霊長類がフォト・プロップスとして使用される際には、日光や懐中電灯の光を浴びる機会が非常に多くなります (Nekaris et al. 2015)。そのような霊長類たちをペットとするため、あるいは「救おう」として、観光客や外国人居住者が購入することも多いのです (Bergin et al. 2019; Osterberg &

Nekaris 2015; LaFleur pers. obs.)。さらに、野生の霊長類が生息する国、生息しない国の双方において、大型類人猿を含む野生動物<sup>\*3</sup>をフォト・プロップスとして繁殖させるビジネスが行われています (Aldrich 2018)。これらの動物は、成長して力が強くなり安全に扱えなくなると、処分されるかバックヤードで過ごすことになります。そのような動物が劣悪な環境で飼育されていることもありますしづらありますが、一般の人々の目には触れないか、無視されます (Agoramoorthy & Hsu 2005; Reuter & Schaefer 2016)。

霊長類に関する適切なメッセージを発することについて、霊長類学者や学生、保全活動に関わる人、動物園の飼育員やボランティア、レスキューセンター やサンクチュアリ、政府機関職員やエコツーリズムガイドなどの霊長類と深く関わる人々（以下、“メッセンジャー”）は重要な役割を持ちます。同様に、著名な保全活動家や活動に寄付を行う篤志家、映画やテレビで活躍するセレブリティ、政府関係者、メディアのプロデューサーたちが、霊長類に関して模範となるような適切な行動を取ることも重要です。結局のところ、霊長類に関する情報発信が成功するかどうかは、伝え手がどのような意図を持って発信したかどうかではなく、そのメッセージがどのように受け止められるかということにかかっています。

以下では、上に述べた“メッセンジャー”たちが、画像の使用方法について、特に人が霊長類の近くにいるか、抱いている画像を使用することを再考しなければならない理由を説明します。また、そのような理由を鑑みた、霊長類の画像使用が霊長類の福祉、生息域内および域外での保全に与える潜在的なコストを削減するためのガイドラインを提供します。

#### <訳注>

\*1: 不特定多数の人がコミュニケーションを取り、情報の共有や拡散が生まれる媒体。SNSを含む

\*2: 写真撮影の際に被写体を演出するために使用される小道具

\*3: 飼育されているか野外にいるかに関わらず、家畜化されていない動物

## 人と霊長類が接近した画像の問題点

### 人と霊長類が近接している画像は、霊長類に対する一般の理解を歪める

- ソーシャルメディア上に投稿される、人間が霊長類を抱いている画像は、霊長類に関する一般の人々の考え方に対して負の影響を与えます (Ross et al. 2011; Nekaris et al. 2013; Leighty et al. 2015; Clarke et al. 2019)。霊長類を抱いている人や、霊長類に物理的に非常に近いところにいる人の画像は、霊長類に触ることは物理的に危険ではなく、人間や霊長類の健康へのリスクではなく、霊長類はよいペットになるという誤った印象を与えます。このような行動は人々に霊長類を単なる娯楽の一種として認識させます。その結

果、靈長類の生物多様性上の価値や、絶滅の危機に瀕しているという現状を過小評価されることになり、特に生息域内での保全活動を弱体化させる可能性があります (Ross et al. 2008; Schroepfer et al. 2011; Leighty et al. 2015, Morrow et al. 2017; Aldrich 2018)。

### 人と靈長類が近接している画像は、文化によって異なる解釈を受ける可能性がある

- 「人間」と「自然」、あるいは「人間」と「野生動物」の間に明確な境界線を引く文化がある一方で、明確な境界線を引かない文化も多くあります。靈長類の生息国に特にあてはまりますが、後者のような文化圏の場合、人々は必ずしも靈長類を「野生」動物として認識しているわけではありません (Aldrich 2018)。それぞれの靈長類と人の関係性や関わり方によって、人々の画像の解釈は変化することが予想されます。例えば、靈長類に対する認識は、農村部の住民と都市部の住民で大きく異なることが知られています (Franquesa-Soler & Serio Silva 2017; Ceballos-Mago & Chivers 2010)。このような認識の違いは、ある特定の文化や地域の視点からその画像にこめられたメッセージが、他の文化や地域の人々には異なるメッセージとして受け取られる可能性があることを意味しています。

### “メッセンジャー”たちが靈長類と一緒に写った画像は、一般の人々に、自分も靈長類に接近した画像を撮りたいと思わせるかもしれない

- 獣医師、飼育員、野生動物の研究者や保全活動家、芸能人、ボランティアや観光客が野生動物の保護施設等で靈長類を抱いたり、餌を与えたりしている画像は、それを見た人々に同じように靈長類と接したいという欲求を生み出します。(靈長類を含む) 野生動物に接近し、間に互いを隔てるような物理的な障壁がない状態で写真を撮る行為は、旅行の思い出を記録、シェア<sup>\*4</sup>し、旅行に行ったことを周りに示す手段として人気を集めています (Shutt 2014)。人間と靈長類の接触している様子を見せるることは、密猟防止、ペット飼育の防止、保全の大切さといったメッセージを伝えることを阻害します。このようなことは、レスキューセンターやサンクチュアリ、NGO や政府機関職員にとって、本来避けたいことのはずです。さらに、靈長類学者が靈長類の世話をしている写真は、地元住民から、保全活動家が人間よりも動物を大切にしていると受け取られることもあり、地域の保全に対する感情を悪化させる可能性もあります (Meijaard & Sheil 2008; Waters et al. 2018)。

### 訳注

\*4：ソーシャルメディアに投稿すること

## 結論

靈長類の福祉と保全に携わる者として、私たちは靈長類と近接した自分たちの画像を公開することの直接的・間接的な影響に責任を持つ必要があります (Wallis 2018)。靈長類が人と一緒にいる画像を人気のあるメディアで発信することで、靈長類に関する正しい理解を阻み、異文化間の誤解を招く可能性を増加させます。さらに、不適切な靈長類との関わりを増加させることで靈長類の福祉や救護、野生復帰の努力を弱体化させ、あらゆる文脈での靈長類の保全のための努力を妨げる可能性があります。そのため、そのような画像を公開することによるマイナスの影響がプラスの影響を上回る可能性があります。絶滅の危機の大きさを考えると 予防原則を適応する必要があります。

簡単に言えば、靈長類のための責任あるメッセンジャーであるということは、撮影した文脈が無視・誤解されやすいソーシャルメディアに、靈長類が自分たちに接近している画像を投稿しない義務があるということです。これには、教育活動を行ったり、会議で発表したり、メディアで活動したり、靈長類に対する保全意識を高めるために働く人が含まれます。これは靈長類と共に、または靈長類のために働く人すべてに適用されますが、靈長類の研究で名が良く知られていて、一般の人々の靈長類に対する認識への影響力が強い人は特に注意が必要です。

靈長類の画像が靈長類の福祉、生息域内および域外での保全に与える潜在的なコストを削減するために、以下のガイドラインを提供します。

## 靈長類に関する適切な画像配信のためのガイドライン

- あなた自身、または所属組織において、職員、学生、ボランティアによる画像の普及に関する行動規範を作成しましょう。マーケティングおよび広報部門、または何らかのコミュニケーションを行うボランティアにも行動規範を十分に周知してください。
- 知名度の高い人物の画像のように広く公開されてからしばらく経っている場合には、それらすべての画像をコントロールすることはできないかもしれません。その場合は、代わりとなるような新たな画像を提供し、元の画像に問題がある理由を説明するべきです。また、そのような人には、公の場で現在持っている考え方について述べる機会もあるでしょう。
- 灵長類の福祉と保全のために、人と灵長類が近接した画像に関する問題について、あなたやあなたの組織のウェブサイト、出版物、プログラム、プレゼンテーション、ガイ

ド付きツアーなどで説明し、一般からの理解を促進しましょう。

- 飼育霊長類の暮らす囲い<sup>\*5</sup>の中にいる人の写真は撮らず、囲いの外にいる人を撮影して、模範となるような適切な行動を示しましょう（霊長類が放し飼いで飼育されている場合を除く）。
- 飼育員に抱かれている霊長類の写真を公開しないようにしましょう。これらの写真は、霊長類単独または同種の動物と一緒に写っている写真に置き換えてください。
- 飼育員やボランティア、寄付者の手から直接食べ物を与えた後、遊んだり、直接触れ合ったりしている霊長類の写真は、人間が適切な保護具を着用している場合を除き、公開しないでください。
- 野生の霊長類と人間が一緒に写っている画像を公開する場合は、人と霊長類との間に最低 7 メートル/23 フィートの距離を確保してください。
- 霊長類学を専門職としてアピールする画像では、マスク<sup>\*6</sup>、双眼鏡、ノートなどを画像に含めることで文脈をはっきりさせ、その背景を説明してください。

#### <訳注>

\*5：屋外運動場、屋内運動場やケージなど、霊長類が囲いの中で飼育されている場所

\*6：感染症対策として

## 引用文献

- Agoramoorthy G & Hsu MJ. 2005. Use of nonhuman primates in entertainment in Southeast Asia. *Journal of Applied Animal Welfare Science* 8:141-149.
- Aldrich BC. 2018. The use of primate actors in feature films 1990-2013. *Anthrozoos* 31:5-21.
- Bergin D, Atoussi S & Waters S. 2018. Online trade of Barbary macaques *Macaca sylvanus* in Morocco and Algeria. *Biodiversity and Conservation* 27:531-534.
- Ceballos-Mago N & Chivers DJ. 2010. Local knowledge and perceptions of pet primates and wild Margarita capuchins on Isla de Margarita and Isla de Coche in Venezuela. *Endangered Species Research* 13:63-72.
- Clarke TA, Reuter KE, LaFleur M & Schaefer MS. 2019. A viral video and pet lemurs on Twitter. *PLoS ONE* 14(1): e0208577.
- Franquesa-Soler M & Serio-Silva JC. 2017. Through the eyes of children: Drawings as an evaluation

- tool for children's understanding about Endangered Mexican primates. *American Journal of Primatology* 79: DOI.10.1002/ajp.22723.
- LaFleur M, Clarke TA, Reuter KE, Schaefer MS & terHorst C. 2019. Illegal trade of wild-captured *Lemur catta* within Madagascar. *Folia Primatologica* 90:199-214.
- Leighty KA, Valuska AJ, Grand AP, Bettinger TL, Mellen JD, Ross SR, Boyle P & Ogden JJ. 2015. Impact of visual context on public perceptions of non-human primate performers. *PLoS ONE* e0118487.
- Morrow KS, Jameson KA & Trinidad JS. 2017. Primates in film. In *The International Encyclopaedia of Primatology* (eds M Bezanson, KC MacKinnon, E Riley, CJ Campbell, KAI Nekaris, A Estrada, AF Di Fiore, S Ross, LE Jones-Engel, B Thierry, RW Sussman, C Sanz, J Loudon, S Elton & A Fuentes). DOI:10.1002/9781119179313.wbprim0350
- Meijaard E & Sheil D. 2008. Cuddly animals don't persuade poor people to back conservation. *Nature* 454:159. <https://www.nature.com/articles/454159b.pdf>
- Nekaris KAI, Musing L, Vazquez AG & Donati G. 2015. Is tickling torture? Assessing welfare towards slow lorises (*Nycticebus* spp.) within Web 2.0 videos. *Folia Primatologica* 86:534-51.
- Nekaris KAI, Campbell N, Coggins TG, Rode EJ, Nijman V. 2013. Tickled to death analysing public perceptions of "cute" videos of threatened species (slow lorises – *Nycticebus* spp.) on Web 2.0 sites. *PLoS ONE* 8(7):e69215.
- Norconk MA, Atsalis S, Tully, G, Santillan AM, Waters S, Knott CD, Ross SR, Shanee S & Stiles D. 2020. Reducing the primate pet trade: Actions for primatologists. *American Journal of Primatology* DOI.org/10.1002/ajp.23079.
- Osterberg P & Nekaris KAI. 2015. The use of animals as photo props to attract tourists in Thailand: A case study of the slow loris (*Nycticebus* spp.). *Traffic Bulletin* 27:13-18.
- Reuter KE & Schaefer MS. 2016. Captive conditions of pet lemurs in Madagascar. *Folia Primatologica* 87:48-63.
- Ross SR, Lukas KE, Lonsdorf EV, Stoinski TS, Hare B, Shumaker R & Goodall J. 2008. Inappropriate use and portrayal of chimpanzees. *Science* 319:1487 DOI 10.1126/science.1154490.
- Ross SR, Vreeman VM, Lonsdorf EV. 2011. Specific image characteristics influence attitudes about chimpanzee conservation and use as pets. *PLoS ONE* 6:e22050.
- Schroepfer KK, Rosati AG, Chartrand T & Hare B. 2011. Use of "entertainment" chimpanzees in commercials distorts public perception regarding their conservation status. *PLoS ONE* 6:e26048.
- Shutt K. 2014. An interdisciplinary risk assessment of gorilla ecotourism. PhD, Durham University. Available at <http://etheses.dur.ac.uk/10586/>
- Wallis J. 2018. The role of tourism in securing a sustainable existence for primates. In *Primate Biology, Biocultural Diversity and Sustainable Development in Tropical Forests*. UNESCO.
- Waters S, Watson T, Bell S & Setchell JM. 2018. Communicating for conservation: circumventing

conflict with communities over domestic dog ownership, North Morocco. *European journal of Wildlife Research* 64:69 doi: 10.1007/s10344-018-1230-x.

## 謝辞

オランダ・ウーウェハンズ動物園財団の Siân Water への支援に感謝申し上げます。グラフィックを担当してくださったマレーシアサバ州・ポンゴアライアンスの Pravind Segaran と、レイアウトを担当してくださった Janette Wallis に感謝します。PSG 執行評議会のメンバーと Arcus Foundation の Linda May には、原稿段階のガイドラインにコメントをいただいたことに感謝します。Laëtitia Marechal は、バーバリーマカクプロジェクト、英国リンカーン大学、モロッコのイフラネ国立公園に感謝の意を表します。詳細については、[www.human-primate-interactions.org](http://www.human-primate-interactions.org) を参照してください。

